



Fig. 15. One of the host plants, *Melilotus officinalis* on Iriomotejima Island.

謝辞

末筆ながら、本稿を草するにあたって同定確認の労を賜った R. Caldara 博士（ミラノ大学）に記して感謝の意を表する。

【短報】宮古諸島大神島からのトカライソジョウカイモドキの記録

トカライソジョウカイモドキ *Laius miyamotoi* Nakane, 1955 は国内ではトカラ列島中之島から与那国島に分布し（吉富, 2011），宮古諸島では池間島からのみ記録されている（東, 2002）。筆者らは、宮古諸島大神島で本種を採集したので報告する。

3♂ 1♀, 沖縄県宮古島市平良大神, 19. III. 2020, 瀬戸山採集。

本種は、大神島多目的広場に面する転石の岩礁



図 1. 生息環境（沖縄県宮古島市平良大神）。

引用文献

- Caldara, R., 1990. Revisione tassonomica delle specie palearctiche del genere *Tychius* Germar (Coleoptera Curculionidae). Memorie della Società Italiana di Scienze Naturali e del Museo Civico di Storia Naturale di Milano, 25 (3) : 51–218.
- Hong, K.-J., A. B. Egorov, & B. A. Korotyaev, 2000. Illustrated Catalogue of Curculionidae in Korea (Coleoptera) (Insects of Korea, Series 5). 337 pp. Korea Research Institute of Bioscience and Biotechnology and Center for Insect Systematics, Seoul, Korea.
- Hong, K.-J., S.-W. Park, & K.-D. Han, 2012. Weevils II. Arthropoda: Insecta: Coleoptera: Curculionidae: Curculioninae, Cossoninae, Mesoptyliinae. Insect Fauna of Korea, 12 (7). 179 pp. National Institute of Biological Resources, Incheon, Korea.
- 小島弘昭・森本 桂, 2004. 日本ゾウムシ上科のオンライン目録とデータベース. 九州大学総合研究博物館研究報告, (2) : 33–147.
- 森本 桂, 1984. ゾウムシ科 [pp. 269–345 incl. 16 pls.]. 林 匡夫・森本 桂・木元新作(編著), 原色日本甲虫図鑑(IV), 438 pp. incl. 72 pls., 保育社, 大阪.
- 佐々木健志・木村正明・河村 太, 2002. コウチュウ目(鞘翅目) [pp. 157–284]. 東 清二(監修), 屋富祖昌子・金城政勝・林 正美・小濱継雄・佐々木健志・木村正明・河村 太(編), 沖縄県産生物目録シリーズ1. 増補改訂琉球列島産昆虫目録, xxiv + 570 pp. 沖縄生物学会, 沖縄・西原.
- 高井 泰, 1991. 1981年沖永良部島合宿. Leben, (21) : 31–45.

(2020年4月17日受領, 2020年5月15日受理)

上で確認され、岩礁の高潮線付近を歩行する成虫を発見・採集した。採集個体以外にも数個体の生息を確認しており、一つの転石上に2～3個体を確認できるところも見られた。また、採集時は曇天下であったが、成虫は素早く歩行していた。

本科の成虫は広食性で、多くの種は花粉を選択的に摂食していると考えられているが（Mayor, 2002），本種の生息場所に植物は生育していなかった。そこで雄成虫1個体の消化管内容物を確認したところ、節足動物のクチクラ破片が多く残留しており、ダニ類の触肢（図2）や爪（図3）と思われる部位が認められた。その一方で、花粉等の植物質は認められなかった。このことから、本種は生涯を通じ、動物質のみを摂食して生活している可能性があり、今後、幼虫期の食性も含め調査・検討する必要がある。

なお、本調査は東京農業大学戦略研究プロジェクト（代表：小島）の一環として行われた。

末筆ながら、池間島における本種の文献記録についてご教示いただいた鈴木茂氏に厚く御礼申し上げる。

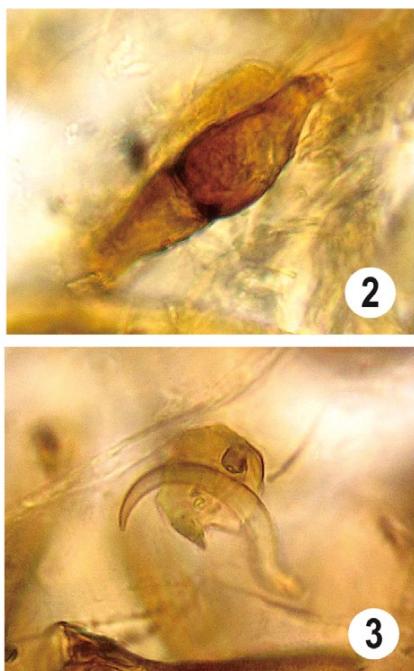


図 2-3. 消化管内容物. 2, ダニ類の触肢と思われる部位;3, ダニ類の爪と思われる部位.

で国内から初記録された (S.-T. Hisamatsu, 2016). これに伴い, *E. (D.) fuscicollis* は日本のケシキスイ相から除外された。なお, 沼田 (2012) は秋田県から *E. (D.) fuscicollis* を報告しているが、これも同様に *E. (D.) vicaria* であると考えられる。

筆者の伊藤は 2018 年 7 月および 2020 年 5 月に山形県内にてケシキスイ相の調査を実施し、捕獲されたケシキスイを検視していたところ本種を確認した。また、第二筆者の宮尾は、2019 年 7 月～8 月に静岡県富士市にて果実トラップを用いて甲虫相調査を実施した結果、本種を得たため、両県産個体を以下に報告する。なお、本報告で用いた標本は全て筆者の伊藤が保管している。



Fig. 1. Dorsal habitus of *Epuraea (Dadopora) vicaria* (♂, Yamagata-ken). Scale bar: 1.0 mm.

引用文献

- 東 清二 (監修), 2002. 琉球列島産昆虫目録 増補改訂版. xxiv+570 pp., 沖縄生物学会, 西原町.
Mayor, A. J., 2002. 74. Melyridae Leach 1815, Pp. 281–304. In Arnett, R. H., Jr., M. C. Thomas, P. E. Skelley, & J. H. Frank (eds.), American Beetles, 2. 861 pp. CRC Press, Florida.
吉富博之・林 尚希, 2011. 日本産ジョウカイモドキ科とその近縁科のリスト. さやばねニューシリーズ, (2): 18–24.

(瀬戸山知佳 234-0034 厚木市船子 1737
東京農業大学昆虫学研究室)
(小島弘昭 234-0034 厚木市船子 1737
東京農業大学昆虫学研究室)
(浅野 真 422-8045 静岡市駿河区西島 164-1)

【短報】山形県および静岡県におけるカノコヒラタケシキスイの記録

カノコヒラタケシキスイ *Epuraea (Dadopora) vicaria* Kirejtshuk & Kvamme, 2001 は極東ロシア (サハリン) から記載されたケシキスイ科の一種である。日本では当初ヨーロッパやアフリカ北部などに広く分布する *E. (D.) fuscicollis* (Stephens, 1835) として北海道から記録されたが (Kashizaki & S.-T. Hisamatsu, 2011), 2016 年に *E. (D.) vicaria* に訂正されたこと

山形県 : 1 ♂ (Fig. 1), 山形市山寺 (標高 600 m 付近), 13–16. VII. 2018, 伊藤採集 (パイナップルトラップ); 4 ♂♂, 天童市田麦野 (標高 500 m 付近), 2–3. V. 2020, 伊藤採集 (バナナトラップ); 2 ♂♂, 同地, 4–5. V. 2020, 伊藤採集 (バナナトラップ); 2 ♂♂, 同地, 6–8. V. 2020, 伊藤採集 (バナナトラップ); 1 ♂ 2 ♀♀, 同地, 8–9. V. 2020, 伊藤採集 (バナナトラップ); 3 ♂♂ 2 ♀♀, 同地, 9–11. V. 2020, 伊藤採集 (バナナトラップ). 静岡県 : 1 ♂, 富士市大渕浅黄塚付近 (標高 1,400 m 付近), 24–26. VII. 2019, 宮尾採集 (バナナトラップ); 1 ♀, 同地, 26–28. VII. 2019, 宮尾採集 (バナナトラップ); 9 ♂♂, 同地, 28. VII–2. VIII. 2019, 宮尾採集 (バナナトラップ); 1 ♂, 同地, 15–18. VIII. 2019, 宮尾採集 (バナナトラップ).

本種の生態については *Dadopora* 亜属の他種に類似すると推測され (S.-T. Hisamatsu, 2016), ヨーロッパに分布する近縁種の *E. (D.) guttata* はバラ科やセリ科の花上、または発酵果実に集まとるとされる。北海道や秋田県ではバナナトラップやミズナラの樹液で採集されており、本報告の個体も同様に、全て果実トラップ (パイナップルまたはバナナ) によって採集された。本種は、北海道では低地で記録されているが、今回山形県では標高 500 ~ 600 m 付近、静岡県では標高 1,400 m 付近で得られ、中標高帯にまで分布していることが明らかとなった。本稿により、本種の分布は南限を大きく更新することとなったが、